

博物館だより

No.199



令和5年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都市みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー								2023年 6月	
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
28	29	30	31	1	2	3			
4	5	6	7	8	9	10			
11	12	13	14	15	16	17			
18	19	20	21	22	23	24			
25	26	27	28	29	30	1			

休館日 ※情報はR5.5.20現在

「令和」改元5周年 先人顕彰マンガ完成記念特別展

会期：4月29日祝・昭和の日～6月25日(日)

当館では、「元号「令和」改元5周年」と「みやこ町先人顕彰マンガ吉田兄弟物語」の完成を記念して特別展を開催しています。

マンガの主人公、吉田増蔵が考案した元号に因んで開催初日となる「昭和の日」に企画展会場の当館ホールで、開会記念式典を実施しました。この中で、今回のマンガ製作にあたり事業の助成に貢献いただいたB&G財団常務理事の朝日田智明様と吉田増蔵のマンガ作画を担当した持永しのぶ様に対して内田町長から感謝状が贈呈されました。またこの式典には「吉田学軒顕彰会」の皆様や「マンガ製作活用検討委員会」の委員をはじめ、兄弟に関係する各種資料をご提供いただいた方々など多数の関係者にご出席いただき、改めて完成をご披露することができました。

式典終了後、マンガの原作を担当した学芸員による「ギャラリートーク」が行われ、各種展示資料について詳細な説明を行い、この兄弟が成し遂げた功績の大きさを改めて知っていただく機会となりました。

また「昭和レトログッズ」の展示コーナーを見た皆様から「懐かしい!」コメントを繰り返し頂戴しました。



▲「昭和レトログッズ」の展示「懐かしい〜!」の一言です。



▲マンガ製作に携わっていただいた関係者の皆様ご協力いただきありがとうございました!

◆博物館NEWS ★講座・教室・催し物ガイド 6月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
6月3日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】
6月10日(土) 10時～
- 【古典かな講座】
6月17日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】
6月24日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

文化遺産ボランティア(豊み隊!) 養成講座(第8期)参加者募集!

みやこ町の文化遺産を、3つの活動①ガイド(案内)②ガード(管理)③ワーク(調査&支援)を通じて「守り・活かし・未来へ繋げる」活動を行います。

ヤル気と元気がある方なら、町内外不問で途中からの参加もOKです。あなたも「町のお宝の魅力」を発見・発信・発展させる取組みに一緒にしませんか?

※6/11(日)以降月1回程度活動。
申込時に詳細をご案内します。
※申込先 ☎33-4666へ。



▲ガード(管理)の活動例：永沼家住宅(犀川帆柱)夏草を地元の皆さんと協力して刈払いました

5月の業務日誌から

5月3日(水)夜、光富と犀川横瀬地区で豊前神楽の奉納が4年ぶりに行われました(上高屋は4/28に奉納済)。久しぶりの奉納に会場の皆さんが沸立ち「神人和楽」の世界が繰広げられました。

5月13・14日(土・日)、4年ぶりとなる、犀川神事(生立八幡宮神幸祭)の山笠奉納が行われました。明治後初となる奉納山笠数の減少(8基が6基に)もありましたが、活気は以前同様で、大いに賑わいました。



▲左：谷口の「戻り山」(14日)/右：久々の山立て(4日・続命院)



▲左：「岩戸」開きの舞(横瀬) / 右：「地割」での問答(光富)

みやこの歴史発見伝 158
よしだますぞう
吉田増蔵(その十三)

マンガでみる吉田兄弟の功績③

みやこの町の人々「の父」

当館では夏目漱石の小説「三四郎」のモデルとなった「小宮豊隆」をはじめ、みやこの町出身で様々な分野で業績を残した先人10名を対象に顕彰活動を行っています。今回製作したマンガは、この10名に兄弟で「ノミネット」されている吉田増蔵・健作を対象としたものです。

このような先人の功績を表す際に「の父」と称することがありますが、これは一つの分野を築き上げた人物「創始者」を表現したものです。みやこの町の人々では「堺利彦」(日本社会主義運動の父)と吉田兄弟の兄吉田健作(日本近代製麻業の父)の2名が該当します。今回はこの「の父」という視点を通して、吉田健作と現在、注目を集めている「ある人物」との意外な関係についてご紹介します。

「朝の連ドラ」主人公と

現在放送されている、朝の連続テレビ小説「らんまん」は植



▲健作を内国勧業博覧会の事務員に推す田中芳男

物分類学で大きな功績を残したことから「日本植物学の父」と称された牧野富太郎の生涯をドラマ化したものです。牧野富太郎は、文久2年(1862)4月に

日本全国の博物館の礎を築いた功績から「日本博物館の父」と称されています。

2人の師、田中芳男

高知県で生まれています。久2年(1862)4月に

8)8月に現在の長野県飯田市に生まれています。彼が勧業寮、農商務省に勤務した際、部下の一人が吉田健作でした。田中芳男は、当時、大久保利通が特に力を入れていた「第一回内国勧業博覧会」の事務員に健作を抜擢し、これを成功させた健作を高く評価します。その後もフランスで製麻業を学んだ吉田健作とともに殖産興業の発展に努めています。明治25年(1892)2月、

中芳男と弟の吉田増蔵によって健作の功績や工場設立に至るまでの苦勞など、その生涯について詳しく刻まれました。

一方の牧野富太郎は、明治14年(1881)4月、書籍や顕微鏡を購入し、「第二回内国勧業博覧会」を見学することを目的として上京します。この時彼は、故郷の植物研究の成果を独学でまとめた「土佐植物目録」を持参し、田中芳男を訪ねていますが、これを見た田中芳男は、その完成度の高さに驚嘆したという逸話が残されています。この出来事が牧野富太郎を植物研究に邁進させる原動力になったといわれており、また後年、彼が東京大学で研究することができた背景には田中芳男の存在が影響したとも伝えられています。

田中芳男は天保9年(1838)8月に現在の長野県飯田市に生まれています。彼が勧業寮、農商務省に勤務した際、部下の一人が吉田健作でした。田中芳男は、当時、大久保利通が特に力を入れていた「第一回内国勧業博覧会」の事務員に健作を抜擢し、これを成功させた健作を高く評価します。その後もフランスで製麻業を学んだ吉田健作とともに殖産興業の発展に努めています。明治25年(1892)2月、

吉田健作は持病の喘息が悪化し、41歳の若さで亡くなります。この5年後、健作が日本初の近代製麻工場を建設した滋賀県大津市に、吉田健作の顕彰碑が造立されます。この碑面には、田

ヒメシヤラやゲンカイツツジなどの調査を行っています。昭和15年(1940)9月に行われた犬ヶ岳(福岡県豊前市、大分県中津市)の調査では、崖上の「ツクシシヤクナゲ」を掘んだ際に崖から転落しています。このとき背骨の2箇所を折る重傷を負いますが、手にはしっかりとツクシシヤクナゲが握られていたというエピソードが残っています。その後、療養のため別府に滞在しますが、彼は休むことなく「豊後梅」に関する論文を執筆しています。この翌年の8歳の時には、「人生初の海外渡航調査」で満州(現在の中東北部)に渡り植物採集を行っています。このように数々の困難を乗り越えながらも一途に植物研究に取り組む姿勢は吉田健作と通じるもので「の父」と称される所以でもあります。また健作と牧野富太郎は、植物学や田中芳男という共通の師を通じて何等かの接点があった可能性も垣間見ることが出来ます。牧野富太郎が文字通り「命がけ」で採取した犬ヶ岳のツクシシヤクナゲは、昭和40年(1965)に「犬ヶ岳ツクシシヤクナゲ自生地」として国指定天然記念物に指定されています。(井上信隆)

治25年(1892)2月、吉田健作は持病の喘息が悪化し、41歳の若さで亡くなります。この5年後、健作が日本初の近代製麻工場を建設した滋賀県大津市に、吉田健作の顕彰碑が造立されます。この碑面には、田

豊前地方における牧野富太郎の調査 牧野富太郎は96歳で亡くなるまで全国各地を巡り50万点以上の標本を製作しています。九州では、久住山、阿蘇山などで調査を行っており、大分県の植物採集では全身10か所をスズメバチに刺された記録をみる事が出来ます。豊前地方では昭和7年(1932)8月11日から5日間わたって九州博物館同好会の主催により英彦山でヒコサン